

小さなことから始める街のリフォーム

デービッド・スーチャー / 著、矢嶋宏光・榎戸敬介他 / 訳
 原題：CITY COMFORTS ~How To Build An Urban-village~
 集文社、A5・175頁、定価 = 本体 2,300円 + 税

街に「快適」のエッセンスを。

シアトル市でデベロッパーを営むとともに市の都市計画にも広く関わってきた著者が、北米諸都市に実存する「快適な要素」を切り出し、豊富な写真とともにその意味をわかりやすく料理する...本書は、ちょっとした工夫と、短期的に取り入れることができる様々なアイデアを例示し、街角から展開される街づくりの新たな視点を紹介した本である。

「シティ・コンフォート」(原題)と「アーバン・ビレッジのつくり方」(原副題)が示すとおり、都市における快適な要素のなかに都市(アーバン)と村(ビレッジ)が共存する街づくりを模索する著者の捉え方は、北米の自動車社会に対する現実的な対処の考え方でもある。

それは、土地利用、建築デザイン、交通、景観、歴史保存、パブリックアートにおよぶが、本書には専門分野の区別を超えた生活者の視点が貫かれている。我が国でも参加型の街づくりが進むなか、邦題が示すように、ディテールと実現性を重視し、既存の資産を活用するアプローチは、行政、開発者、建築家、プランナーなどの専門家にとっても、不意を突かれるような鋭さとして感じられることであろう。事実、アメリカンプランナーズ協会(APA)においても、そのユニークな視点や表現が高く評価されている。

また、本書は専門家のみならず一般読者を対象に書かれており、市民にとっての新鮮なアイデア集となるであろう。まずは、表紙の写真が醸し出す雰囲気から著者のセンスを感じられたい。

前向きな、市民レベルの議論へ。

本書は、これまで日本の都市作りで捨象されてきた部分を思い出させてくれる。旅行や映像を通じて、海外の居心地の良い都市を知ってしまった国民が、自分の住む街にどれだけ納得できているだろうか。本書で取り上げられているアイデアは、専門的には新しいものではなかったり、国内では既に珍しくないものもあるが、日本の都市の「良さ」を再発見し、いたずらにアメリカ型に移行しつつある地方都市のあり方に疑問を投げかけることになれば、単なるアイデア集以上の意味を持つことになるであろう。そして、一人でも多くの市民が都市について前向きに考え始める題材になり得るならば、中心市街地問題も自ずから打開の糸口を見出せることができるのではないだろうか？



環境を考えたクルマ社会

～欧米の交通需要マネジメントの試み～
 交通と環境を考える会、技報堂出版
 B 6・210 頁、定価 = 本体 2,000 円 + 税

近年、我が国では、急激なモータリゼーションの進展により、大気汚染・交通渋滞の深刻化、都心部の衰退現象などの影響が顕著になりつつあり、道路等の交通施設整備とともに自動車交通負荷の低減策が求められてきている。この動向を先取りしていると思われる欧米諸国においては、交通需要に対応して交通施設を供給するという従来型の対応では、環境保全やモビリティ確保等の課題への対応が困難であるとの認識から、自動車利用の規制、他の交通手段への転換、土地利用の誘導など交通需要を直接コントロールする交通需要マネジメント施策が試行されている。

本書では、海外の先進的な国や都市の政策担当者に対して直接ヒアリングを行い、最新の情報に基づいて7つの事例を紹介するとともに、我が国への施策導入の必要性、方向性について考察している。紹介した事例は、いずれも我が国で交通需要マネジメント的手法の導入を検討する際に有効なものである。

本書は、環境保全等を含む幅広い視野に立った、今後の交通計画の在り方を考える際の参考書である。

交通と環境を考える会

石田東生（筑波大学）
 原田 昇（東京大学）
 谷口 守（岡山大学）
 中野 敦・萩野保克・牧村和彦

（（財）計量計画研究所）

目次

- 第1章 クルマ社会の行方
- 第2章 大気汚染と戦う自動車王国ロサンゼルス
- 通勤自動車削減条例レギュレーション XV -
- 第3章 郊外クルマ社会のモビリティ戦略
- 郊外化による新たな交通問題への取組み -
- 第4章 都市成長管理の発想とクルマ社会
- サンフランシスコ都市圏に見る環境重視策 -
- 第5章 クルマ社会のオアシス
- ポートランドの都心交通計画 -
- 第6章 土地利用と交通のトータルプラン
- オランダの都市交通計画 -
- 第7章 自転車重視のニュータウン
- オランダ・ハウテン市の都市計画 -
- 第8章 都心流入料金による交通施設整備
- トールリングシステムとオスロプロジェクト -
- 第9章 環境を考えたクルマ社会をめざして
- 日本の交通計画の方向 -



データでみる国際比較

～ 交通関連データ集 2000 ～

国土交通省道路局 / 監修
財団法人 計量計画研究所 / 編著・発行
CD-Rom (PDF 形式) 日本語版、英語版 各 140 頁
定価 各 3,000 円 (消費税込み、本体各 2,857 円)

本書は、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカなど欧米交通先進諸国と日本について、交通関連の豊富なデータ、路線図、写真等を取りまとめ、比較したデータ集です。各国の ITS (高度道路情報システム)、TDM (交通需要マネジメント)、事業手続き、費用便益分析、環境アセスメントといった最新事情も収録しております。ご好評いただきました、1999 年 4 月発行の初版から各種データの更新を行っているとともに、渋滞対策、自転車

利用、空港・港湾等の項目を大幅に拡充しています。また、今回新たに英語版も同時に発行することとなりました。

本書が、わが国の交通インフラの現状の理解をすすめ、今後の交通施設整備について考える上で、交通計画に携わる研究者、学生、行政担当者および交通問題に興味をお持ちの一般市民の最良の手引きとなることを確信しております。



< 主要目次 >

1. 社会経済データ
2. 交通需要動向
3. 道路施設整備
4. 交通施設整備
5. 道路交通サービス水準の動向
6. 道路交通計画と制度
7. ソフト施策
8. 事業手続き、費用便益分析、環境アセスメント
9. 財源制度
10. 建設コスト
11. 行政機構

大規模開発地区関連交通計画マニュアルの解説

～都市開発に伴う交通問題にどう対処すればよいか～

建設省都市局都市交通調査室 / 監修

大規模開発地区交通環境研究会 / 編著、ぎょうせい

B5・186頁、定価＝本体3,000円＋税

近年、増加している大規模な都市開発に対し、事前に開発に伴う交通を見通し、これに対処するための計画を策定することが、都市の交通計画の重要な課題である。このため、建設省は適切な交通計画の策定を推進し、円滑な交通と良好な都市環境を実現するため、「大規模開発地区関連交通計画マニュアル」を公表している。このマニュアルは、1989年に初版が公表されて以降、90年、94年、99年に改訂されてきており、全国の地方公共団体等において広く活用されている。

本書は、このマニュアルの一層の活用を図るため、その内容を基礎となっている考え方とともにわかりやすく解説したものである。本書の主な内容は、改訂に際して行われた実態調査データの収集、分析、原単位の標準値の決定のための一連の検討の紹介である。

本書の対象とする大規模開発と交通の関係に関するデータ蓄積ならびに調査研究は、比較的歴史の浅い分野である。本書の内容は、現時点で利用可能な最多のデータと最大限検証し得た客観的知見に基づくものであるが、

さらにデータ蓄積を行い、調査研究を進める必要があることは論を待たない。今後とも、より良い、より広く活用されるマニュアルを目指して、改訂を重ねていくことを予定している。

一連の検討は、学識経験者、建設省職員とともに、本研究所の研究員が参加して行われたものであり、本書の作成は、改めて下記の研究会を組織して行った。

大規模開発地区交通環境研究会

学識経験者：黒川 洸

(座長：東京工業大学大学院教授)

矢島 隆

(帝都高速度交通営団理事、

元建設省大臣官房技術審議官)

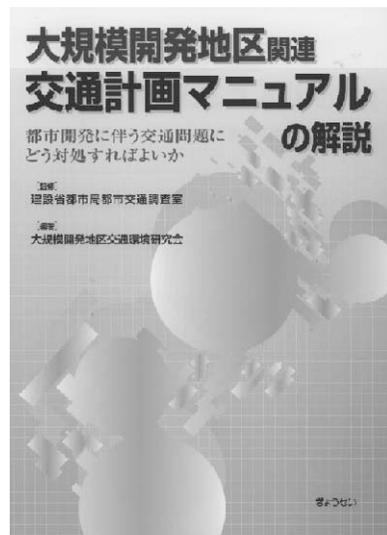
建設省：福井 照、望月明彦、長瀬龍彦、
武政 功、森 秀毅、新階寛恭、
高柳百合子

IBS：宮本成雄、中野 敦、秋元伸裕

(所属は本の出版時点)

<目次>

- 第1章 マニュアル作成の背景
- 第2章 大規模都市開発と関連交通計画
- 第3章 マニュアルの使用にあたって
- 第4章 大規模開発地区関連交通計画マニュアル
- 第5章 関連交通計画の特性と交通量予測の枠組み
- 第6章 発生集中原単位の特性分析および要因分析
- 第7章 発生集中原単位の適用方法
- 第8章 データ集
- 第9章 マニュアルの適用事例
- 第10章 海外における交通影響評価事例



地域経済学と地域政策

H.アームストロング+J.テイラー / 著

坂下 昇 (流通経済大学教授) / 監訳

(財)計量計画研究所地域経済学研究会 / 訳

流通経済大学出版会、定価 = 本体 4,000 円 + 税

イギリスおよびヨーロッパ連合の実例を豊富に引用しつつ、地域経済分析および地域経済政策のわかりやすい解説を展開した。

万人向き「地域経済学」テキストである。

(財)計量計画研究所地域経済学研究会

坂下 昇 (流通経済大学)

西村 巧 (IBS 経済社会研究室)

河野達仁 (" 経済社会研究室)

佐藤徹治 (" 経済社会研究室)

秋元伸裕 (" 交通研究室)

佐藤和彦 (" 交通研究室)

岩佐賢治 (" 都市地域研究室)

内山 征 (" 都市地域研究室)

島田敦子 (" 都市地域研究室)

寺嶋大輔 (" 都市地域研究室)

馬場 剛 (" 環境資源研究室)

谷貝 等 (" 東北事務所)

福田智之 (あさひ銀行総合研究所研究開発部)

(所属は本の出版時点)

目次

監訳者序文

原著者序文

第1部 地域経済学

第1章 地域所得と雇用の決定

第2章 地域経済モデル化のための投入
産出接近法

第3章 地域成長格差：新古典派モデル

第4章 地域成長の移出主導モデル

第5章 地域間交易

第6章 地域間人口移動

第7章 地域雇用成長

第8章 地域失業格差

第2部 地域政策

第9章 地域政策を良しとする事例：イギリスの経験

第10章 地域政策の諸手段

第11章 内生的発展：小企業と技術進歩

第12章 地域政策と欧州共同体

第13章 地域政策と権限委譲

第14章 地域政策の評価

付録：イギリスにおける地域政策の系譜

(1928 - 92)



バスはよみがえる

～バスが活躍する時代が、またやってきた!!～

秋山哲男・中村文彦（編）

日本評論社、四六判・定価（本体 2,000 円 + 税）

都市部ではマイカーの普及と渋滞によって、地方では過疎化によって、バスは道路の片隅に追いやられてきた。しかし、高齢化と環境問題が問い直される現在、規制緩和も追い風にしながら、バスはよみがえろうとしている。

本書では、諸外国に比べ我が国が立ち遅れている、バスの規制緩和への対応、自動車に代わる交通手段としてのバスの役割の検討、高齢者・障害者のモビリティ確保対策といった視点や、我が国固有の交通問題ともいえる、地域交通計画における自治体運行のコミュニティバスの位置づけの不明瞭さ、中心市街地活性化の道具としてバスがうまく機能していない点などを分析の視点としながら、施策（ソフト）と車両（ハード）の両面の事例を交えて、解説を行っている。

目次

- 序章 バスはよみがえる
- 第一章 在来バスの可能性
- 第二章 すきま交通への期待
- 第三章 高齢者・障害者とバス・タクシー・ST サービス
- 第四章 過疎地域バス交通の挑戦
- 第五章 進化するバス車両
- 第六章 規制緩和に向かうバス市場

執筆者（順不同）

秋山哲男（東京都立大学教授）

中村文彦（横浜国立大学助教授）

秋元伸裕（IBS 交通研究室研究員）

谷貝 等（IBS 事務局企画課課長代理）

松原 淳（(株)オリエントタルコンサルタンツ
技術主幹）

鈴木文彦（交通ジャーナリスト・
日本バス友の会企画部長）

寺田一薫（東京商船大学助教授）

